

ESG説明会 質疑応答

参考資料: ESG説明会資料

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=XbJU7R7OjKw%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=XbJU7R7OjKw%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=XbJU7R7OjKw%3d&tabid=100&mid=826&TabModule819=0)

(補足) ICP : インターナルカーボンプライシング

CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) : 二酸化炭素回収・貯留(技術)

- Q. 八戸製錬の CO₂ 削減について、例えば鉄鋼業では水素を還元材に用いる取り組みがあるが、非常に難しい課題だと考えている。2050 年のカーボンニュートラルに向けた、技術に関するロードマップや研究について所見があれば教えてほしい。
- A. 金属製錬のカーボンニュートラルについても鉄鋼と同じく新技術に頼らざるを得ないと考えている。そのため、新技術についてはしっかりと注視し、適切なタイミングで導入する。また、現時点でも取り組めることはいくつかあり、例えばコークスの一部を CO₂ 排出の少ない天然ガスに変更するなど、取り組めることを着実に積み重ねていく。
- 当社の全世界の拠点で 181 万 t の CO₂ を排出しており、国内が約 80% の 145 万 t。その中の Scope1 が約 44% あり、コークスを使う八戸をどうするかが重要なのはご指摘の通り。一方で亜鉛は鉄を錆びさせず長寿命化の役割があるため、CO₂ を多く排出するからよくない事業と判断するのは適切でないと思っている。新技術が出た際に、素早く当社に導入できるように ICP を採用し、CO₂ にはコストがかかるという視点でアンテナを広げながらカーボンニュートラルに取り組む。2030 年過ぎには CCS の実用化も予想されるなど、コストを見ながら新技術を導入し、いかに世の中に貢献できるかを考えている。残念ながら現時点では具体的な解決方法はない。
- Q. コーポレートガバナンス報告書では、経常利益と報酬インセンティブの連動性が示されているが、事業ポートフォリオの最適化について資本効率をインセンティブに取り入れる、あるいは非財務指標をインセンティブに取り入れるなど、インセンティブについてどのような問題意識をもっているか教えてほしい。
- A. 報酬に非財務指標を含めることは現在報酬委員会で検討しており、執行サイドからも強く要請している。ESG それぞれの項目を選び、ある比率で報酬に反映させることで社外に対して当社の「本気度」を示すことになり、また社内に対しても役員の「やる気」を示すことに繋がる。EとSは適切な項目がある程度決まってきたが、Gが難しく、どのような項目にするべきか検討している段階。遅くとも来年度(再来年の報酬)には、非財務指標を含める予定。資本効率の指標について、現在の報酬委員会で議論はしていないが、事業ポートフォリオを管理する際にROICで判断しているため、全体の資本効率について、会社としての方針をある程度明確に出す必要があると思っている。全体の資本効率については社外の委員と議論まで至っておらず、報酬に含める話まで進んでいないが、資本効率は非常に意識している。
- Q. 電力を再生可能エネルギー100%にすることを掲げている会社もあるが、御社は銅箔で使用する電力の再生可能エネルギー化について、どのように考えているのか。
- A. 上尾工場については、電力のうち30%を再生可能エネルギーで調達しており、今後海外を含めてさらに比率をあげていくことを検討している。

- Q. ESG 視点の経営で、これからの経営方針や投資の判断がどのように変わっていくのかを知りたい。例えば期待事業性を評価する際に ESG の機会・リスクを織り込んでいることや ICP を投資判断に活用することで、今後の投資計画や経営方針がどのように変わっていくのか、特に金属製錬や触媒事業への影響も含めて教えてほしい。
- A. GX 経済移行債で政府が 20 兆円支出し、その償還にカーボンプライシングを用いる等を踏まえると、近い将来カーボンプライシングが導入されると考えており、今後の投資の際には、金属や触媒に限らず CO2 を排出するコストを加味して判断したい。また、ICP には CO2 を減らすことでコストが下がるとの見方もあり、両にらみで考えていく。もう一つ各事業を評価する際に、P15 の ESG 機会・リスク 5 項目（環境影響、社会関係資本、人的資本、ビジネスモデル・イノベーション、リーダーシップ・ガバナンス）のうち、例えば人的資本を更に投入できるかどうか、が ESG 含めた将来リスクに対する基準の一つ。この人的資本の例のように ESG 機会・リスク 5 項目それぞれに様々な基準があり、それも加味して各事業を判断している。
- Q. 銅箔については、国内の30%が再生可能エネルギーとの説明があったが、鉄鋼事業等では低CO2排出鋼材やCO2排出フリー鋼材などに建設業や製造業からの引き合いが強くなっている。銅箔もしくは他のもので、そのような兆候が既に起きているのか、あるいは今後2,3年ですぐに起きそうなものがあるのか教えてほしい。
- A. ご承知のとおり北米系スマホメーカーの要請が強く、それに対応している。また、カーボンニュートラルに向けたロードマップを全社集計する過程で、各所から再生可能エネルギー調達の案件が出てくると想定しており、それを踏まえて全社方針を固めていきたい。最近では三井金属アクトに対して、お客さまからカーボンフットプリントのデータ要請が頻繁にきているなど、自動車部品業界でそのような圧力が高まっており、準備を進めている。
- Q. ダイバーシティを推進し多様性を活かして競争力を高めていくとの説明があり、多様性を尊重することや女性の管理職比率を上げることはとても大切な動きだと思うが、競争力を高める、つまり会社の収益力を高めることにどのように繋げていくのか、またその効果をどのように測定するのかコメントをお願いしたい。
- A. 私の経験から説明すると、マレーシア銅箔の社長を3年務めていたが、幹部の3割は女性だった。その中で議論を行うと多様性のある会議となり、我々だけでは出てこないような議論が進むという経験をしている。そのようなこともあり、私は社長としてダイバーシティを率先して進めている。執行役員に杉元がいるように、幹部の中でもこれまでと異なる議論ができてきており、なおかつ、これまでのメンバーシップ型の年功序列的な制度では若い人達からの発言が出にくいことがあったが、ダイバーシティが広がっていくとそのような風土が変わっていくのではないかと思う。どのように変わるのか数値化は非常に難しいが、P40のチャートのとおり、イノベーションの創出につながり、イキイキと働ける職場により生産性も上がることで中長期的な収益の向上、ひいては当社の企業価値の向上に繋がると確信している。

以上